青陽帖

享和四年版

俳諧句

竹人

歳旦

涼さうれん言葉花さてハ咲し此　七十二歳　木僊

なけうゝ鳥乃こゑ朝風　里喬

ひと日ゝ毎ゝ七草の老もして　方禾

其二

遠鳥も多き是等ゝ笑しあと　才禾

こう海八葉乃こゑていねあくる体　木仙

社日とて酒砂糖をうちなゝ　里喬

其三

父母乃おもた左ゝた宿の春　里喬

茅家出て来るまもなく西方　方禾
鼓柴茅角かさ〳〵折り生て　木仙
　　李奥
雉子時やし雨ふる山ぶき　星鳶
○
山ぶき一本を見通す苣の汁　才禾
○
拍子木やし板を切人を追ふ　木仙
　　吹寄
獅子のうん越ぼるの見るとの節　方禾

急景
りとしを片ぶくに眠る人ぶか　星鳶
　　調寄
苣苔乃かりそめなるとし暮れ　八千竹
舟仙一折　春興
山椒乃芽ぶくもえ及乃も雨ふる　里鳶
　　はるの日ふる〳〵ねぶる　木僊
垂をかく〳〵と炉塞ぐるよ岳ぶん　方禾
　コツフよりつふ顔のかゝしき　鳶
多宵ぶも入て端山よ春かゝ　僊
さむね燈更迄父と風乃ゑ　禾

竹舟の仿たし　五十雀　爲仙

小庭乃へすく暖簾の巣へ　永

いそけとういつもの初をとも立き

鶯乃沖乃乾く日ちうり　爲

烏啼申紀の森の本陰きま　仙

うハ夫まいくす神のむらハ　永

庭石乃片隙さてふ　爲

搖木鳥き別秋の表を　仙

色ゑの家松時を　永

笹ふく　私の　水面ニ入　爲

翼接　花ゑうの来を　仙

柳のゆうかみとり並ふる　永

歳旦

[illegible] 鶯笠

[illegible]

[illegible] 、

三藐 [illegible]

[illegible] 佐野 尺龍

[illegible] 、

[illegible] 彼二[illegible]

伊勢名張藩社

門雲[illegible] 蟠松

[illegible] 二口[illegible]

[illegible] 、

[illegible] 、

四季混

[illegible] 、

[illegible] 、

[illegible] 、

豫州

宇和嶋

風子
千枝

ふるつる揺る美濃戸口うる
中〳〵と柳ゆ〳〵る笹原うる
人の名をたづうる美濃ける
館の小春うらく日あうる
川うわも杉〳〵静る夜の人
小笹の葉ゆ七夕ゆく夕アボ
猪角力柳入て中ゆく夕アボ
笹の葉を刀ゆ小和ゆうる刑

蓬亭
里龍

晴方〳〵き言葉つゑや松の心
静〳〵も葉〳〵〳〵雨の緑
和ゆ〳〵る小首も和ゆうる

甲子

會初各

芦陽

海沈の水はかれて　春の風　月園

橋本の花の日は　青羊

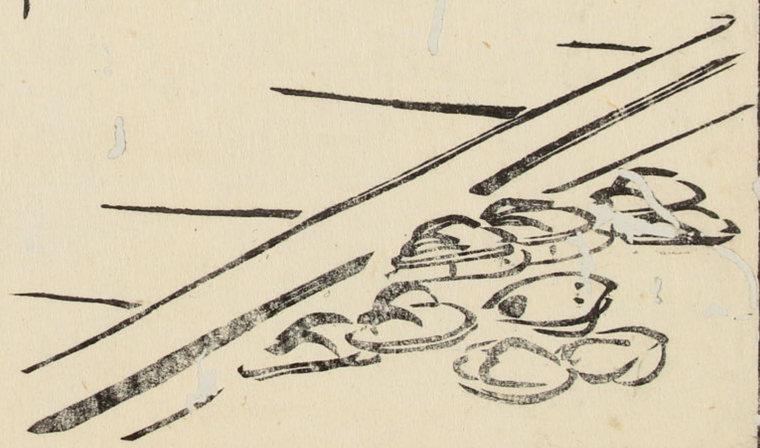
くらしく雀笑

野の春は海より入る　五富

汐干の日　笠下

松風の春のうら風　青羊

一むらの柳より蔦の雲　五富



うき人を嘲る春の雨　猫の妻　秋翠

春の月松を　廿　春水

うとましと思ふ　白英

おぼろ雲　梢雨

引寵は春の雨　芦陽

曙は春の雨　山角や

うゝの笠　樗曉

おもをかくして　風の里　橋

出船やうゝき　寂て見て居る春の水

其日はうゝ　風虹　のり　厚風

住吉や岸の春は　柳を宮も　さし柳根のゆき

咲うゝを百　くれてわる寵汀　ゆく風をゆく

ふる雪　春松　寂よりう芦の芽や　静山

春の雪昼は月松と　春の岡ふ　富友

春の雪昼は月松と　素真

歳始

元はやりの始てこゝ鐘の音ナ　　静山

冬ゝ梁

須弥寺よ大根ひきぬき峠の鳥　〃

春興

葉乃芽の雨濡てたゝ川鳥ゝ雑　〃

通弘

松の内行義よ居て眠さうな　〃

眼をしゝて嫁ゝ川子のあゝしゝ　〃

初芝や三日月ぬけ仏地蔵　〃

雨節

まん仏くよ中抜て起られぬ花の寒　素亭

禅寺やこゝをとも云た大時日　〃

通弘　冬ゝ寒

門ちゝの鳥帽子きゝやゝ杉の内　〃

蜻ゝや子の出ろのうゝ濡れ河　〃

初むとゝもひとゝ日二日うゝ雑　〃

うきゝ子のとゝて出代る母ゝ　〃

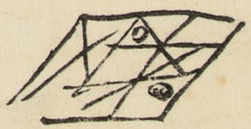
岑戸口や掃臼ゝ元日雨

人こゝろきつと
して打る杵の内

暮は暗や人の
わとすり
墨の色

初もめらしろい
杵の色黒し

雀汀



家こゝの月初めてさし
朔の塔　杵のうち
雲寺也　白みつゝ

初影や
南受る
拂農寺

寄友

通り

蕨葉せなかの撥く　梢雨

餅食る母元洩れ　芦陽

撥この烟うゝ繁茂

多もや撥を吹出す　仝

新わゝし　梢雨

初もみぢ　仝

雲う雑

春くと老木なるの

初芝や　芦陽

冬の雨

狼の声　更りや

冬の山　梢雨

花もるき小春の野辺

を撥くう雑　梢雨

武の國の内なる南の仲の島てふ所の
長うり竹物を呉しはむ月れきのは
ちるきあるあるのちろしと
いも陰生をあり加さきい

初夢ゆりの花

思えは

ちゝ茄子

完車

通髭

めそらいと鶯鶯も時見
松のうち
惜哉也云猿きし
初花よ一下古歌　一雨は外跡
月も猫し
梅聲

上下の音信うてまゝの月　白英

まつの月とうかゝ付る扇のうき　青羊

松の月直打る道之出るこゝろ　調月

雲の月そとゝゝる物のてゝ如　雀笑

ちるゆゝや花ゝ孫れて白き塔　白英

夕さゝや芝打とん蛸の花　青羊

帳この花ゝ他てやこゝふ花ふ　雀笑

花の帳扉ゝけハたいかりり　調月

初花や寺て空めい海ゝ南る　仝

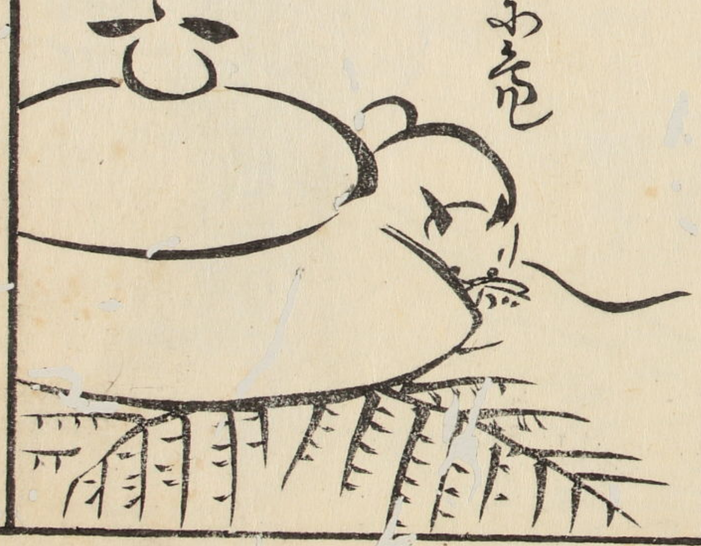
初花や二両三日晴てより　雀笑

初蛍ゝまつ花なかゝ散ゝりも　白英

まつ芝の初さゝり此こき月夜　青羊

住吉の家居や松の内
日月連て幣めぐる出る木
陰の雛
初花やそつと見すり出る
雨の降　　唐風

門を出て見ても居れす松の内
初蝶の四五丁
そ亀ハ義ふ花
そつ花や
一里も行よ
松ぬうも
里橋



松たち海山
としても静さ

さくらの蝶
見ゆるはや
彩雲

初花や
彩ふる人の
見付さう　棲曉

松の月　惜ふやも家の風　江山

寸螺改

花ふる山桜あれも蓋の岩　笠下
もの見

初花や京わかの烟つる　仝

わすれしき　桜の月　江山

山之端也日之筋
爾自無朝霜　子玉

通雲

ほやりと日よりかぶる小幡哉　月園
初もやまさ人別れ鳥う鳴く　〃
美しきはのさしこ入るや松の月　桐渓
幡迄あてあるる猫の狂ひ　〃
白い幡黄色な畑よ植ひる　ザ年　芦大良
初雲の咲そめしより濡てあり　〃
俳優の家よもとりて松の月　霞松
もひとつの幡といふよ泊りかな　〃

春興

春雨や渡の舟曳静なる　里山

山茶の咲よりうつる人も眠りなる　〃

深なるもよきなるや雨の帳　花雪

蛙よりも無夏すす菜のなるる　〃

暮ゆやあつと呼けい人の顔　柳糸

梅寿を　〃

通題

松の間来る人も皆わら緑　月湖改　月樵

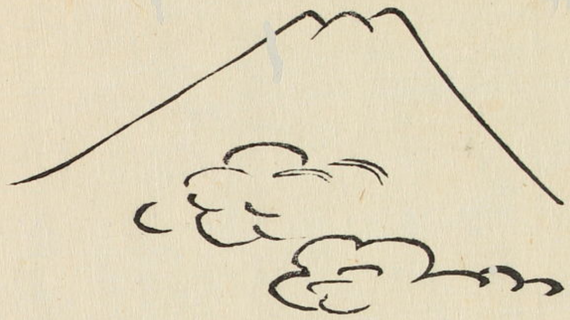
うゝめる山風初もの稽より　〃

咲こぼるゝ稽きさら老て雨代　〃

早春

梅の香よ品の香来て生活し　〃

夕時雨雀を居り蝸牛　〃



虎眠改

胡民

行見ー

美乃

あらまを

けり川霞

日乃

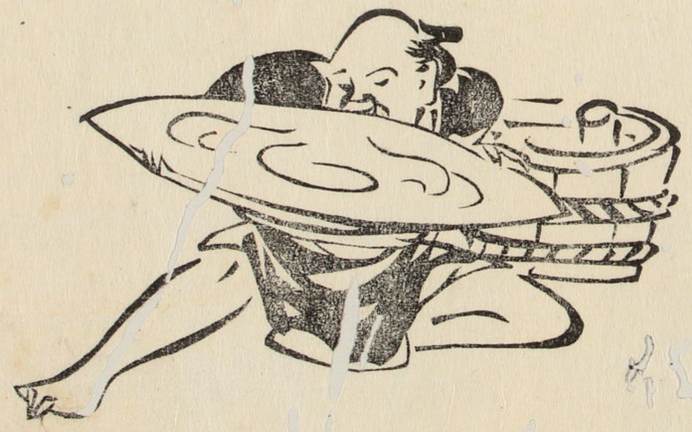
さくら

人のこゝろ

ゆ

九ゝ里

雅童



菜畑

屋根や素袍の角乃きれまくり　升日

代

出代より遠ひらり偶ぶ　〃

李異

鶏やけや蕨も鋼も青乃鳥　清遠屋

○ふもこうのかなしかるふ

山塚乃小のうらの冬むくとも　八方庵

歳旦

即降よりの人の気を由乃めり　宇和島　觀鳥

李異

梅咲やきのふ乃人も珍しき　〃

信より汲て

志乃千乃やの船を繋る人乃数　〃

李異

父母も喜ハの年ゆうむめのも　仮寓北陽　西川

○

湖や姿うつして帰ふ丁　野辺山田　玉羽

春興

菜入れや雲ふる東山　路潮

見渡せば古郷の門や春の水　〃

和州高取社中

麦ばたけ雲雀来ぬべう吾妻へ
下りるまゝ人くを分るとて

都形て
春ゝ来る馬を
すゝめ刈　呉綾

杉の月

杉の月ゝ分て静かに雪の降　霞志

懐

日新たに先ハ位さく懐々ゝ　〃

初春

ほんのりと花ゝつ花ゝとやはる雪　〃

懐

懐〳〵乃ゝ〳〵新花て静かに　鳳毛

初春ゝ能ゝ連て人の角く　〃

懐

聖人ゝハ教ゝ稀も懐や懐　子剛

初花

初花や雲ハ杉毎川て降る雪ゝ　〃

杉の月

濁初冠濁のなくれ者を照　〃

杉の門

杉の門を杉のそよめの風　一泉

蝶

蝶畫ひ柳より飛り花ちる、

初花

ちるもやうを畫くさそふ蝶、

蝶

むらむらと蝶来て花を閉じ　秋曉

初花

高花や日面なるゝ二三瓣、

蝶

花よ碎ゝ蝶〳〵飛る桜の上　芝蘭

初花

咲初め彼岸の風の行るより、

杉の門

杉の門こそ後開て花ゝ二日の春　仙會

蝶

蝶〳〵の木艸離るし日和の事、

蝶くやし花吸ふ門十意也　逸圭

初蕪

初花よ日の暮るまでのう恨さるり　逸圭

蝶

体ゝ〳〵いかゝ〳〵ぬてとゝまる蝶〳〵小　文友

初花

初蕪や拔ぬ花も少ゝ殘る　〃

春けふ十日あまりよをつゝく
ゝるゝ後子の子を抱て

紅一ノ花を見拾ふ子ゝ　琢磨

春日紀行

三山や　ちぐ〳〵雲あり　〃

年頭

明めれい家士の扇子初日の出　吉先

年賀

年賀に来る柳の鞭や〳〵濕る　〃

年中濕の影〳〵中まし　〃

歳旦　祝ふまるゝあるて

齋や十八公の神のはる　土樂

松の内

日の影や雲ゝ稜ふ初のゝ　〃

蝶

舟の内　土朱

春風の吹やみ吉野の山の桜ちる　幸風

蝶

秋くれやとまり遅れて日を暮す　〃

夜雲

うとうと時雨あらた柳の葉ゆる　〃

蝶

蝶くるる野中の草ゆるれくし　八千男

蝶

飛ら蝶ちくくと尺れハ浮ひ色　風十

初霜

初霜や宮の柱ぬすむ老ん　〃

蝶

蝶死んて花ぬ葉ハ花ら者ケ　林糸

書奥

蜂一ツ樽ら川ハ水ハ入ル　〃

蝶

雛やうの蛍の中より花胡蝶　佳席改　素人

初霜

さつ霜や糸ゝ人をそのうへ　丶

蝶

蕎の花の咲ぬよ蝶の来ゝり　八一

初花

初霜乃咲山人の多ゝ言し　丶

杉の門

常盤ゝ人の世作しき杉の門　雅亮

初霜

初雪の咲やそ千むの落ゝ　丶

春の内

神ゝしや杉沼ゝて遊竈　香山主　湖水

蝶

ゝ世ゝ世や蝶形舞ゝ起て出ゝ　丶

初花

さつ霜やゆゝ人よ淺ゝ新の味　丶

杉の角
春戸門より朝福女兼の壹ゑ　圭々

蝶

唱食乃鮭きい蝶の打ゑれ乃色　、

初花

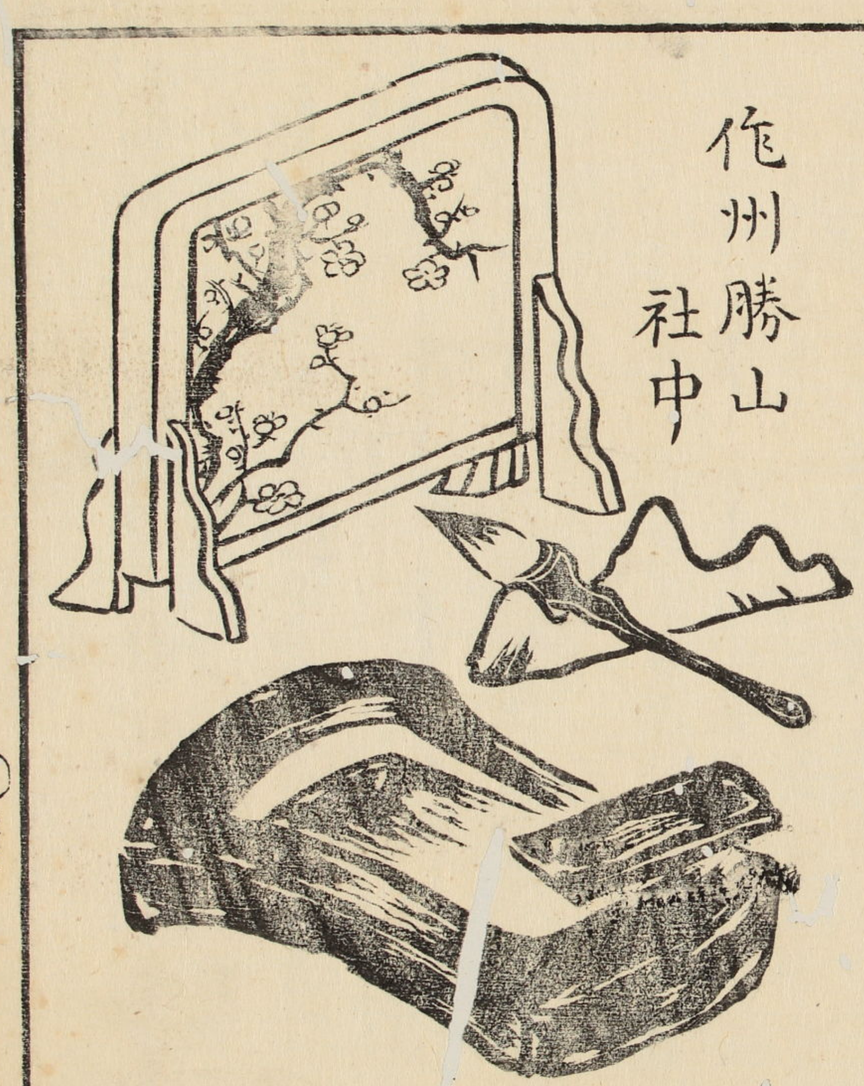
初春や日よりよりの雲の吉兆　、

春雲

蕨ゆているの茶色梅の蕚　、

四月花ゑる

青柳は一羽来てよりまとしき　八千房



作州勝山
社中

松の内

常に来る人いつしか松の内　紫水
松の内かくれ海苔の竜の髭　花鳴
雲の内元入寺社小姓の足袋　東羽
心かくれうつくしき松の内　百雄

蝶

蝶〳〵やこゝもつれあふ恋の蝶　紫水
恋の蝶舞ふさ姿りて吹れ由く　花鳴
ふ〳〵の手よかくれ日和うる　波綾
夜ゆく〳〵もさそかし　蝶ゆ蝶　春里
見しきよ蝶の二つ来ふ　八千代
白ひ蝶苔ふ蝶ひ子ふ目立り　東羽

眠る中よてふ〳〵秀よやうりう
ゆりひ切〳〵ちねは風情よしの蝶　百雄

卯花

たゝむの大きふ枝をこゆ迄ふ　波綾
卯花や多年〳〵ちゝも新て見よ　春里
卯花に烏帽子脱ふ人もなう　八千代
卯花や見ふ人乃主ゆも　亀好

通路

美の世や蝶よ更て枝ひりふ　一芦
卯花や人のこゝろの新きそめ　〃
卯蝶や見ふかゝふくもふの上　竹児
卯花や小入西ふを雲れゝ

曙乃蝶二月の花の
為ふるゝ　右文　ニテ　楷

初花や人とゝ新もて
二日　新

月乃光そこりゝ
見ゆるゝ　松の内七八

蝶〳〵や世せいしき
中うしあゝ、

条後乃山ゝ
初花乃花乃仕ゝ

杉の内ゆてゝふるゝの
日出ゝ　稲友

尺の蝶雲とい
淀ゝひゝ月ゝ、

初花や伊勢の
橋ハ岩ゝ、

ゆゝ出て湖のゝと　鉄す
胡蝶ゝ　屋烏

初花や丈かゝゝゝゝ
いそかゝ、

通歌

松の月

美しうものつ[illegible]ふ松の月　里翠

神の花

神の花や雲入[illegible]ふ夏の月　松[illegible]

椿

[illegible]の椿ひら[illegible]　松[illegible]

松のれうの[illegible]ふ牡丹十種を植てとし
ごろの愛になりぬるひとは此座を[illegible]
きて[illegible]のあるを童子廿日丸と名のる
むらし[illegible]貞[illegible]の柳[illegible]れ芸の丸をあるふ
[illegible]迎丸或ハ[illegible]丸の名あるに故
牡丹丸[illegible]丸を花[illegible]
けりとて獅子丸を東[illegible]
[illegible]て八日上是より名の[illegible]

日[illegible]りよ[illegible]

稲友

小松の二十日丸

廿日磨ニ説　晋何系

人ともいてゝを愛し花をりつゝ見
ゝと恵光るやそのもゝ乃りたるまゝの孫ふ
りゝといふ心をとりて園主みつゝふ廿日丸
と名のる丸を一字の語讓りて翠のよ
ゝ花隠逸ゝもゝ花冥ハ花り
まゝゝといふその人の弧弦をよろふ
ゝ哉

恵ひす俳ほとんの
わふしりみる

安光ハ天にあり文化ゝ
星生のゝを祝し作ふ

根とゝてそのもゝかゝふ冬ゝ芽　里翠
ふまゝゝとゝゝふ
ゝりもの号ちを賀し作ふ

ゝゝ若や冬いうゝさうゝ星の主　宇橋
ゝゝゝわりあり南に山ゝり夢
ゝゝゝあふ冥ゝの茶主を
祝ゝ

あゝゝゝゝ冬も廿日の孫乃尾　芝芳

名ハ冥の賓とゝゝれハ名
ゝもゝゝんゝのゝと嗽石一壷
の二号ゝゝゝゝに廿日丸と
名のゝもおゝゝ

十月晦ゝ十日八歳や冬ゝ牡丹　屋烏

通夜

和泉や南はくるふ木末哉　美濃　麻三

たもしろく蝉単ひとり来ける

仝　藤森　如斗

杉の内淋しうこえて巻あり

和蝉や義の如くたえまなく

人日

日本の窮も近くなる菜哉　春無　珠月苑

あむしと山吹咲て水よもぎ　八千房

豫州

吉田

社中

歳旦

初空や靜よる入れる　花月堂　淇園

晩年

家男多しゆゑ年をみてゐるり　〃

年毎

扨雲雀はなつきゑるかゝる雲の　〃

通髭

初花を折てゐるり　〃

さとゝ初花もとゝ嬢松入内　〃

いつくても初の年ぬ様〳〵　〃

通髭

角ふて初年ゐ
まゐ入りゐ
初花や道ハ蕨
堤ゐれゐ
長閑さや帆ゐ
嬢の法ゐ

歳旦　歳暮春興

初鶯や梵鐘ゐ里
りの靜ゐ
相模ゐの清明ゐ
ゐ
梅ゐ帰ゐ文金ゐ
ゐりゐ里

古

深草蓉秋保

古

清風舎　五政

歳旦

初春を祝ひ出し世の史姫に　抽楷亭　撰雨

醉く寄ふ史月宮と藏開　鼎蘇亭　有儀

晩年

ちらつきや霞もるしか年やれ　左

唯う寄ても大きなる年の市　撰雨

春吟

陽炎や印籠之ほの集の上　仝

雑る時や明て一羽明る鳥　左儀

通歌

皆ふまつて見もハ松乃内　仝

三峯傳廣しまつの日　撰雨

初春は實濃投て西乃方　仝

ちりもやと戯て寄ぬ　有儀

道芽や蝶〳〵寄ぬ陰ふ氏　仝

蝶〳〵と近寄て一人名　撰雨

歳旦

こゝろよきこゝろかなりとなれの春　冷風舎里川

歌年

撫でを過て年寄ぬ春

春興

鶯ぬを梅の花より明るかな

通歌

春の内暗くあれとぬひ糸

初花やそこ迄人の来る

雨の蝶花もよろこぶ

歳旦上ゝ門松葉ねと懸ぬ行里

年暮春雲賣の除て置り枝の雪

春吟仰ぎも撮ぬる生年時の雉

通歌

蝶の巣を除し

春の花　待徒花

春の内見えて

動ぬ風の吹

朝の蝶ともも如農寿可多阿里

右　竹邑亭孤雪

歳旦

三度嶽乃醉ゆゑ〜聲ゑ初日哉　毎佳堂　春甫

家者

飾ゑ居ゑ紫戸ゑや年の暮ゑ　、

寿無

菜花ゑ白しの古〜日の暖ゑ　、

通歌

雲乃内ゑ梅ゑ春のこゝ有り　、

初花やまゝ玉を見る人ゑ有り　、

寿ゑ子ゑ嬉しゑ氣ゑ悠ゑ有り　、

歳旦

初ゑ也ゑ鶴ゑ雀ゑ〜ゑ〜のきく　玄魚か　蘇風

年暮

三十ゑ也ゑ飾ゑ〜ゑ〜ゑ去ゑ年ゑ

春興

ゑ〜ゑ〜ゑ春ゑ来ゑ氣ゑ有ゑ〜ゑ日ゑ光ゑ　、

通歌

緑ゑ也ゑ色ゑ〜ゑ〜ゑ〜ゑ〜ゑ〜ゑ静ゑ　、

村ゑ門ゑ今ゑ太平ゑ乃ゑ飾ゑ〜ゑ門ゑ　、

磨ゑ日ゑ如ゑ山ゑ〜ゑ〜ゑ也ゑ初ゑ乃ゑ　、

世ゑ世ゑ繁ゑ〜ゑ〜ゑ〜ゑ〜ゑ〜ゑ

世ゑ〜ゑ〜ゑ〜ゑ〜ゑ〜ゑ〜ゑ〜ゑ〜ゑ

吉典

神橋をうつろふ紅葉ゆきとふし　洞雨

折柴し鶴の巣の篭あり　、

別山舎

羽力

陽春のうゝいもの繁飾り

雲州母里社中

八千坊

吉典

歳旦　年ごとの舊新をむかへ送るを知る

之新の春ゝ久しきはしらず　悪ゝ機

東峰舘

冬曠

吉典

むめうまや素毛地和の栗　、

年尾

陰新の鐘　新法くに

辺光のうつろふ　、

元旦

元日や戸明る神よ風到る　冬溟

紅梅の中先ゑ出てうつる梅　〃

梅と二株て深起のゆゝしの静さ　〃

歳序

元旦や作らぬ恵の住よ風　冬葵

春雲

春ゆゝしむとよ雲は和らぎ　〃

梅提てれ人もゆゝしの春　〃

通歌　初日　初雪　鶴

初日人丈け高ふ仕来る　簾雨

初雪や雨の二株も晴てより

蝶を見て蝶と先ふ日和る　〃

〇

初雪やさゝ抜りふき日和風　冬溟

この氏に見まて加る和のうち　〃

蝶〳〵よつゐ抜〳〵ふきまれ　〃

通既

杉の門まさきの葉見ゆるし　冬葵

蝶〳〵もしらぬ世の数さき　〃

初むしとその通ふ足跡う　〃

○

杉のもり学ぶ門もるし　冬車

初花や乾ゆるうの花の道　〃

蝶〳〵もしらぬ人生　〃

歳始　旅にて年の暮れを今日

月花をこそ乃の奥やと年の暮　梅后

書の奥

雨二日さうし〳〵柳地を地ぬる　〃

第抽

春て鉢る林歴の家を年重　〃

通既

杉の門杉の中より風ふかし　〃

初もとりとりに吹つも動きつ　〃

蝶〳〵もいつこ物のこゝを花　〃

通路

杉の内柳よりの帰るなり　冬曠

さく川花や吟山さくらの内　〃

おとこなるとかくれてこそ　砂鼓　〃

春興

山鳥やなくなく深くもの日の光し　〃

三歌

杉の内水仕立てまつひろう　琴和

初花や蝶も蜂もさきそめ　〃

春興

雉子鳴く弦平とうぶへうり　〃

麦畑

川竹色ハ橋ありまれい明入来　杉浦田　井花

塩かけて加賀川引とる麦　〃

○

日入て人のまぶく富士や杉の内　伎子の景山　露佳

春雲

沖りこもこの川や蝶〳〵さ花笠　〃

豊后佐伯社

元旦　永田雪子霍の辭
[illegible]

日向耕夫田霍を
子代乃友

映年
おくとしや猫も
ゆくゝき事はしめ

春日
雪色乃霜を稜乃
[illegible]山うゝ

不言舟
桃水

歳旦

初年や　[illegible]
[illegible]　霍[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]

元旦

一よこの欲三川乃朝日かな　白雄　其一

ちゝはゝ
先世雑とゝ仏の浮世なるかな

題歌

家笑ひきの地こゝろ松の内
御むや陸家の手うゝ求さし
賜しさうもうの蛸の極さゝう

豊後臼杵亀城社

題　松のうち　蛸　まつのむ

松のうち人と人とのむすび
ゝ　紀四例　芝かとの日
ハ川ゝうちく松の内公慰

松のうち日ゝて志はし静ゝ
久しまつの内雪枝

雪郷　五歌　雪ゝ　龍く
ゝ川ゝのむの中雪枝　新ゝか原むらう軽し　飛　胡て八
公熟　初むゝ事ちら志ゝワとれゝ利四陵ちの志

乃ちまい[illegible]あり[illegible]無白ひの車 雪枝[illegible]はるや[illegible]人列[illegible]

[illegible]れ帝[illegible]慈 初花や怪我なもこの[illegible]日和吐例

春興會始各一句　曙のあさかすみ[illegible]柳[illegible] 松良

梅[illegible]みて[illegible]山の烟[illegible] 杜陵

[illegible]帝[illegible]ま[illegible]帝[illegible]哉 [illegible]例

むめう[illegible]むくく白[illegible]日和の那 花白

雛子帝や 東[illegible]星の消[illegible]の[illegible] 李々

行燈[illegible]梅の向[illegible]宗[illegible]哉 梅雄

[illegible]引く月[illegible]とうセハ

[illegible]

[illegible]

尾[illegible]て[illegible] [illegible]の[illegible]の中

豊信畠社中

通路

張りや杉よ帝よと花ひ自　花月亭 故曉

那の[illegible]下より[illegible]入堂[illegible]

[illegible]やうはくて仕[illegible]も

○　秋風斧 月化

[illegible]

一枝のこの[illegible]無[illegible]

元姫　永業を従す

源代乃書面を見て新入撰嫗る　大橋舎　錦川

杉の月

杉のもと人と楊乃音しきれ　〃

初花

さらに新やいまさ明るを更所の人　〃

杉の月

杉の月きらふもの明るを　切磯

嫁初花　高野　魚舌

ひらひらと蝶明るを堅門の

西のそとに初花とうふ所さる　〃

通鈍　有田　百鶴

杉の月親〃と見乃沢

紫し金毛山〃申うし蝶の月　〃

峯旦　嘉典　布聲

毛乃書うう風音ふ愛ふり　〃

晴切る日を昼うり春の海

沢山ゑ一両の郭きふ柳ふる　八十坊

豊后高田桂川社

文八旬毎古稀に遇うて

かくしぬやしるべ遠き菊の文と毎
梅よりつりの釣に新くるる
抑重荷まことにまとまりて
雪の雪大日枝ちり枝きき
春もまこと初はりるひかりる
心海とよ菊註光りねる星
清簾りるやし月の光と精るあと

亀六
之白
春江
佳水

菜苗や使ひ残しの傘の下　呉詠
凍とけやふけハ流るるの蘆　雲風
梅ちるる毎に屏風の低き枝をなる　静舟
冬こりしかるるかるる
ひもちこちとかぶれの中を春のあ

二季吟

とし忘れもうき枝を見し花　水哉
世の外の影ふ多もむ入去
帳閑や稼ぐも春のあき春のゆき　咲此
春日の海高き白帆のふるき彩

年内立春

行年入更り入中ほ　ほ乃新　畑田　何竟

歌仙

元旦

大福やいつくけい先　新日山　桃洞

年尾　　

掛う島を踏く活千や年忘　〃

通歌

素門ほ　所年とけて　杖の内　互遊

新しき春といふも　老杖の内　桃洞

神もまさ如月入さもさる　互遊

さ川花や雲のさ自ほ　蝶一川　桃洞

春興

雑子鳴く春の景ふ流をうり　水月菴

聖長

門松や鶴乃こゝろ人程ふ　〃小松　霞耕

早春

春の雨乃移やすきハ柳ゑる　〃

除夜

思ふ〳〵と雨搗つゝもる　〃

元旦

猫をりや廿こゝろ第四の年ふ　遠方　楓正

春興

蓬ちゝ紫もあり彩もいろり　〃

冬柳

ちゝ〳〵と小時日搗る常と　〃

春興　部分

咲こゝ〳〵ものこゝろ思ふ所天根　八千房

長列赤穴関潺水

歳旦

かゝむ〳〵ふ居蔭よとの雨濯　仙路

四つ辻よ八つ乃方ありとての市　仙路

春奥

篠竹く渚人となりて、

菜前

訪とはゆく秋ふかしあの木の風　水巳

書興

休むとも蝋燭山もむ乃蔭、

元旦

まさ夢もこころよ石二乃初日乳　和歌今井　瓦石

備中松山社

元始

義乃巷中きよりの白ひの有こる　晋和

ゆきりもみて今ともしたる雜蕨哉　李曉

関の戸よ春ひろひ川もみ乃新　貞吏

雪ふ氏こころく居こ今乃の花　春菜

花の巷りを咲抽のこる春　霍人

○

寄法こ乃也川みまもあ乃七福寿　野山　吐翠

宗始

えはや佛もさこし笑ひけり　一枝
あをやうめ暦逆もや三ッ乃紙　清馬

通既

神もやはらさん松のまうけ　松山　梅方
雑〳〵のいく〳〵ひまなる日和哉　〃
夫ほうの雑も花のれん書るゝ　竹人

春興

山里に鳴り逆き二月うる　〃
冨塚寺のうゝ嵐　自更

霍人
清馬
李暁
春菜
一枝

まき柳やとゝもも延てふまれ
鶯や一時日よりも風和し
うゝひすや二月の雨ひかき
ちゝ梅のうゝよ雪はなり乃
若菜や霧もとゝ迄ちるれ

年指　左丈左瞩

人毎よ白ひさぶん深雪の赴め　吐翠
世しの尾乃尾うゝ尼人毛毛播　晋和

嵯旦

代々や依姫ハしく東うゝ　其郷

守家

六十四年凡よくまてとゝ蓋忠　〃

書奥

毒を盛し見別如　横よ弓ゝ　〃

春興

馬ゝるとゝろむ見ゆ柳ゆ　いゑ坊

通記

宮子屋ゝ心ゝもゆ松のゝ　三世房有主

宗盛乃蝶ゝけゝ中世ゝ　〃

宋旦

老もゝゝ見ゆ雪ゝ北の達ゝ　蒲天

やんほ

とゝの尾や追付屋嶺の空ゆ　〃

ゝ去主鵜

ゝゝゝゝゝ宮ゝの河ゝ　〃

[illegible]帝

障子越猫も何思年好哉　石孔猛光　養言

賜う家も却て[illegible]代の姿　至芳

春風に[illegible]

[illegible]も目[illegible]島や孔のもめ　〃

苔代や五[illegible]を[illegible]る猫四〃　[illegible]

通既

[illegible]〳〵乃人と[illegible]　化孔田辺　拵鳥

初七や[illegible]　〃

歳旦（[illegible]年の年の[illegible]）　[illegible]

[illegible]乃[illegible]ぬ[illegible]　吹寿

世話乃[illegible]人も[illegible]　早去

[illegible]　元姫（[illegible]師七十二[illegible]年の[illegible]）　〃上市

師も今朝八[illegible]　三保貫

通既

[illegible]代[illegible]乃[illegible]

花と[illegible]乃中[illegible]乃[illegible]

春興　藤のつまもとの清水をくみ乃ぶ
ちんか　いさゝかうく帆を張て千鳥の川

元旦

大箸や月の書乃
婦多はしら

右　岩井信江　要長湖舎　可樂

歌旦

横雲乃雪もはらゝうに初日哉　陸奥屋　晃雪
ちんか

囲碁の手明やゝ仁危隙ぬ清滝　〃
寿毒毒明の
長寿なる世を武蔵の杉の森　荒浅会　市隆
逆さゝゝゝ人生世文治乃宮　〃
若宮の露ともすて春の雪　〃

元旦　中京
みかゝ郎や宮写ゝ初春　枝條

案晩

とゝの雲三笠の山や月の雲　枝條

春興

初瀬の春仏壇明もあるやや　〃

日永旦

晩鐘も其雲の門よりの春　化物山　三益

年内春

鳴呼春てふ仏陀ゝの袋　〃

通路

三幸

相生や松の内とも松おりしるき　田辺　浮春

花と入屯をゆきもいとう嬉しき　〃

初花又廿花　都　〃

三始

待遠ゝ原旭ゝ梅の匂やうぬ　〃　吐雲

案油

とゝ雲ゝひゝしゝる山静ゝ　〃

春中吟

仏ゝ哥ゝ雲ゝも消すとゝも　又　浮春

伯爵北条連中

歳旦

蓬莱乃酒のこゝろ白ひろう　吉川　恵水

去年のとゝ迄こゝろの神こゝろ　中村氏婦　美代

ゆ〳〵こゝの御遊ぶ玉乃去　田ヒリ　一月

宋紬

こゝ所の去比寿こゝ寿としのこれ　舟代

さ風〳〵の思案果れし年の春　一月

児遊をこゝろ和歌つゝ多ゝすも　恵秀

去暁

ほよ連て静さ足セる夕柳　一月

辻打さふ乃てこゝ市もゝし　恵秀

も茶屋名のゆゝる里の新色る　舟代

通既

杉の内格こゝ分も神の つと　恵水

神もゝ鶴ひゝ川茶てこゝ也ろ　〃

春興

明ゝ川ともゝて春の日暮ゝ　ほ村

三元

花ゝ也弓元代新ゝ吉代の去　阿州　白圭

中ゝ

法師や仏ゝ元ゝ切ゝ去ゝ　〃

去無

彩通の紬ゝ土ゝ也ゝ白ひろう　〃

元こ
世のうきをうとと
思ひ出る神の代

有安乙女
砂糖

かんは
とこの松を除ふる
ふるかもうる
春興

揚ゐるよ七草の面うとて

歌題
歌も月も見る作よ嘆けば代のまち　義六
やみな
春て見ても春又き思ひとしの雪
春興
梅咲て　松や　格の　大　雪屋

東豫州松神子

題歌
二日月　おー　曉　乃　ふうもし　免　周隈
てふ〳〵よ　春を　祝ふ　免　麦　朔
神ゝ歌や　雪の　ふまも　拾ひ　ん

春興

つまと降る雪のふるさとの蔭乃蔦　月花坊

○

春の海唯大そらを仰ぐ蔦　画中

雲

千年経る小松の蔭乃住居　〃

春雲

春の海船も中ゆく二八月　太仙庵

筑紫生葉社

文始

今朝の春まさる夏を長の命　鬼人

三郎

初春のそら旅を扇の動くよう　青々

園部

おのもちろう〳〵月いかりろう　〃

青帝

先世事をとも姫の日の出史　吉井　史游

除夕

とし暮れ仏法くもいろう　〃

春鳥

蛇とろ〳〵と思も斗り　古天

[illegible]又入乃京[illegible]と銭りう　古天

春興

春風や　雪日乃雨　改も　ふし　四列

同吉井社

歳旦

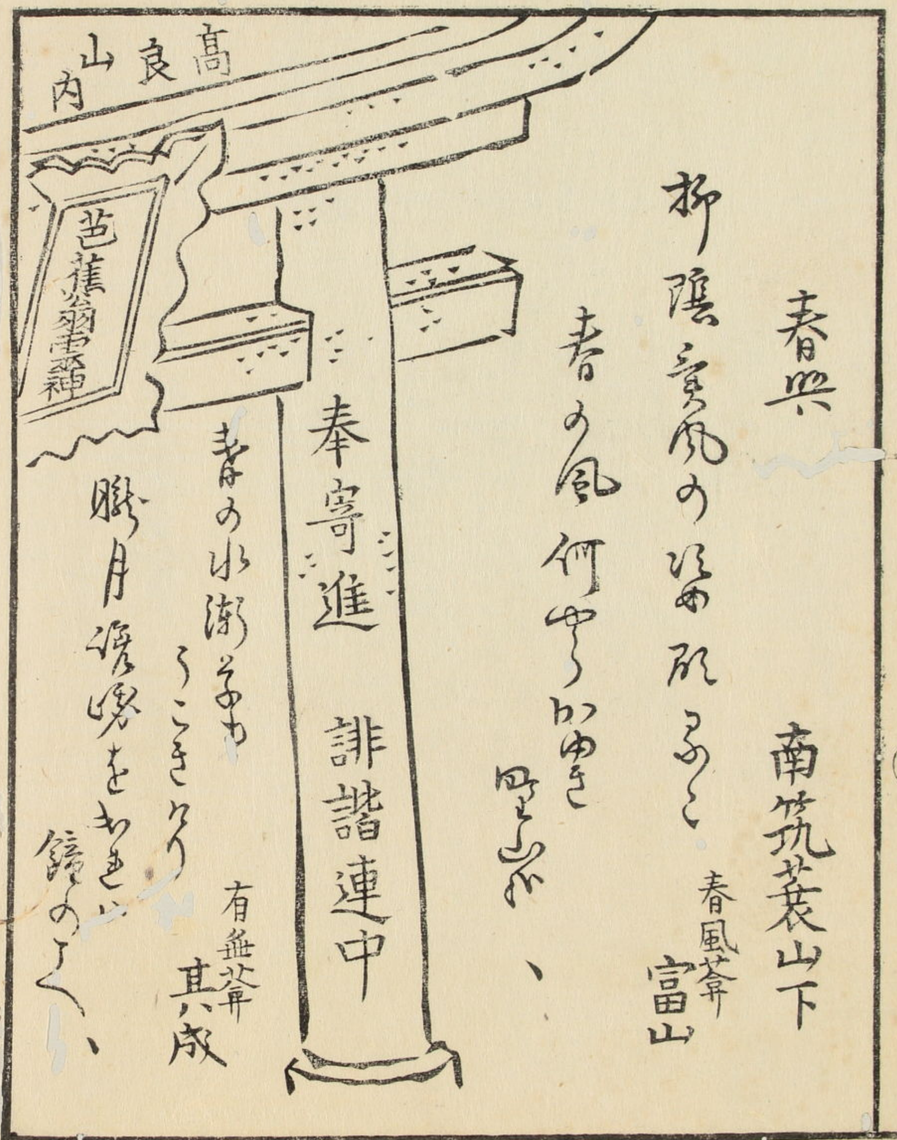
孟子のつくる性を善なりとし人倫を明らかにす

[illegible]　楚蘭

[illegible]

[illegible]

[illegible]



春興

南筑菱山下

柳隠意氣の落所ふる　春風斧富山

春の風何やらかゆき
四ツ山ゝ

春の水澄ゆくこころ　有無斧其成

朧月後嵯をもとゝ
鏡のごとく、

元朝

伯州今津　青日丈園

眼よりかゝ物ゝさき海ゝ初日ゝ　眼月

ち松

百ゝ乃塩夜さ宮ゝ　ほゝまゝ沢

通記

螺ゝや懐　初霞よ

ゝもゝゝ　富ゝ斧妙

見乃山ゝ　世ゝ色

伯州汗入社

三始

いかもせうち拂ふ雪の春　翠月

尾山亭

松の月

初花乃ふくもの影の夢

先拂ふ拔よりあい山嵐

人日　法役俊速なるのまく　お續乃方雜さ作を書りて　ふりの　生涯しの　新を

梅下

杉のうち雛流津
見うれ歌はうり

通題　蝶や　只今遊ぶ川
遊ぶうまり

初春や惜んかるも
高見斗里

右
吉時代
豊立衣

通題

杉のうちとうめてうきを事はうり　不子　民玉
初光入咲てうもひろし　〃
うるもうに遊ぶ小鮒ぶ　〃

書無

阿蘭陀年時まて南ふ陳ぶ　木仙屋

通題　歌無

杉の間也めえてうらうるる　佑金川　如水
也也蝶や彩るもうに人のえ　〃
西月や何をうるもゆるし　万淡
了彩や小野の杉人寺　〃

年賀

[illegible]

[illegible]

豊后佐伯 湖山

[illegible]

[illegible]

甲子元旦 老の春分 宇佐宮遠拝

祝詞中今年[illegible]

七十五歳 龍水

通歌 松間鶯 蝶

山里名産[illegible]

[illegible]

讃州高松社中

歳旦

脇や松[illegible]

鯉登

[illegible]

嗽石

門松やみとせの春の二はら

一列

[illegible]

一寺

年暮

[illegible]

仝

[illegible]

一列

新乃波もとしらし代目出され　頓石

秋吟

世乃人の沖行く桐の一葉哉　風月

春興

雨晴て琴を抱ゆ寺入庵　几鳥

行雲を追て花ゆ寺の雪　〃

ちらく寺冴けり苔の深う寺　柳彩

小てゝ有りや一三四咲て居る　風月

赤さらゝや梅所拾ひ人通　鯉登

四月寒く柳ゆ花ちらく　橘潭

初花を　喜柳葊

入て時志ばらく

拾ふらん

白梅ハ

色ふかつゝ

白ひ哉　仙悟

晩春

八ツ橋乃もとゝろと春入水　八重房

長良萩宮社

歳旦　元の二柱り色を重ね秋きらひの男女持へハ

元旦ハ濡つゝ二筋も代の門　里丈

服部亭

白髪入るの年ひやとの盃　〃

通記

初せや芝居の中ゝ

人の惜ル　伯良大明神　文枝

月影乃唐き毛虫

白ひすれ　信ノ　水亀

初燕乃義なき

そのゝ形ゝ

延勝

ゝ

ゝ胡蝶入先　春ゝ　文枝

阿列冨岡社中

八翔房初會答長興

[illegible] 南亭

[illegible] 巴流

[illegible] 倚存

[illegible] 亀洞

[illegible] 湖嶽

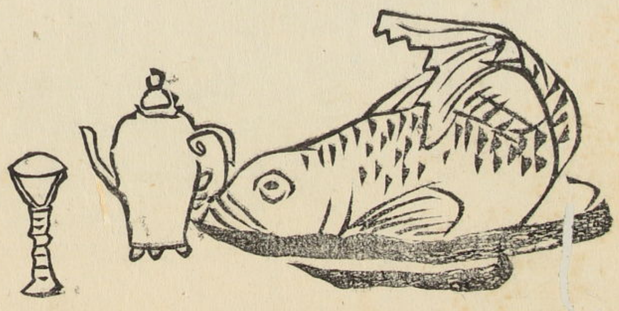
[illegible] 里蟲

[illegible] 立鏡

[illegible] 秋馬

[illegible] 亀頂

[illegible] 八翔



[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

長川辺
島田氏
梅子

通歌

能とゝを笑けハきゝの松の内　箕面
まつもやちゝの沈ハ拍子和　〃
雲ゝうの仙の糸ゝの高も侍琴　巴流
ちゝ毎くゝよ袖ゝさゝ乃もの楽　〃
和もやさゝいつゝうゝ入位あり　秋馬
松の内皆ゝつくゝき人乃奥　〃
ゝ川も乃張中ゝしゝの小菓　倚存
鯀くゝよひゝも引ゝ拍子ゝ　〃

神花やゝゝ山の端乃紅さゝき　湖雄
洞ゝちゝ乃ちゝよゝゝ花の姉　〃
ゝつもやゝ見ゝ知ゝぬゝ時ゝき　五鏡
松の内とゝのつゝえてもいゝ元ゝ　〃

西節

翔日乃春ゝゝも絵きゝとゝゝる　素曉
とゝ乃市人の井中く人乃藝　〃
三姑　元日五ッゝ迄ひて美ゝ

京鶯ゝゝゝゝ迎ゝゝ　里財
冬ゝ乃花
鋼代ゝ月ゝゝ青ゝ　〃

○

幾千里神は乃むめの白ひろ　柴駿

ぞめとしの春とうらうらの雨　〃

○

おなじ御ゝ世いろやもしらぬ新　士芳

ゆゝしき年や弟のいろ代の大鑑　〃

春興

嘲めるもあり春とあり むめの花　〃

通歌

春の雨とあるもとあるも雪乃梅　上山好古亭　歓里

春吟

雪分ハゆき半分ハとあるの曲　〃

春雨

春や春紙押やるハ雪ハ　八重房

豊后三佐社

通歌

おもの角ものく春色紙ぬの吹　入推

梅柳ゝすゝ乃引き松のうち　露淵

乙女ゑうゑしらして松乃内　東楊

偽のなさ角ゑゑ宇宙の内　亀方

[illegible]

初[illegible]の端　方

初[illegible]も[illegible]　淵

[illegible]　揚

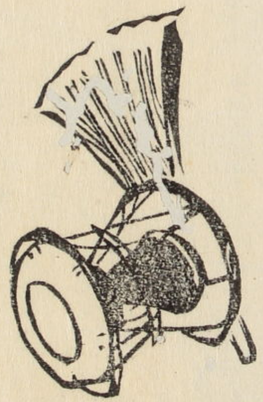
ゆく[illegible]　〃

[illegible]や冈舎ハ[illegible]　淵

[illegible]の[illegible]　蕉

眠[illegible]も[illegible]　方

日別延園



第旦

おさうりや　杉よ竹よと　ひろ乃門　浣水

年楷

[illegible]

初[illegible]

詔光

むくつけき狩ひとの心の誘り衆　菊丈

怒り毛もさてさえ立ちしの長に　、

様

惟う変を　つるる　歳し番し際　、

安興

嘗や毛も立りて立を知を内き　、

三姫

大阪の寄もをやる　時の寄　廿　松栄

光の名い樂る去待を寄る　、

安興

聞も山も中を立てう　春の物　、

春中とし　の咲を

色とれて南子の松よ　ふを中　尼　松貞

ひてうきをを迎て

ひきて廿春を様　初日氣　、

景見

於の白皆うつ　を　ぬう事　廿　仁波

様

解や白ひむ　ハ　見を　ひ　、

やんか

寄を乃かけて寄る　隆春の物　、

春興

[illegible]子のすさび氣[illegible]作山家　石波

[illegible]春

そらに春よりのひとり掃るや年の雪　林之

春興

[illegible]人しるのこと[illegible]山さくら　〃

[illegible]のしるべ[illegible]峰の外　〃

春興

小[illegible]打てしらるる[illegible]岩のうく　木仙

豫州三島社

春興

[illegible]を追てもよ遠[illegible]山路の外　蔥園

春の日乃山[illegible]尾よ[illegible]春よりの　〃

冬の比

[illegible]より[illegible]春[illegible]より　支氣[illegible]　何桂

春興

[illegible]の事思日を[illegible]遊の物[illegible]し　〃

冬の春興

神[illegible]　[illegible]て[illegible]花　春耕

風中　[illegible]　〃

和歌所月次屏風　寛政

うハ玉のもを流せて根ゑ子　、

俗前金川社　通弘

ゆくてゝ　何書八ゆ通

書の餘　時ゝの沖て

ゝふ子れ

月指

杜の月以也も　露の岩根て

寛政

人の氣を引ゝ　ゝ風市

書の物語ハ師と物りよう　六　青岐

通弘

蓬莱の人の玉ゝ　杜のうち　雜山

浮ゝ　ゝ　澤彼

鄙ゝ　ゝ　ゝ

○

文成ゝ　杜の月　芙水

揚惜也　風ゝ　ゝ

通路

新月春を実よ宮へ入る道
あるべき憎人を出て深て中く　〃遠州　賀素

○

苔の内柳を分る風の音　〃岡山　嵐足

新むもむめを見んとはるる　〃

書奥

春よ憎何時て中きすくり　〃　芝風

去る奥に月の中きるる　〃

○

昨日のや伊丹の梅の酒を中き　木仙

〃加茂社　皎湖

やはらぎ去もとり　〃

〃春日の今の風雅梅　〃　可轉

春日奥

〃　〃　〃　

かけとりや春の明方の風と　湖梅

春興

春乃雲や春の春の風　〃

通歌

初雲や花の香さそふ芝の庭　得雨

幾〻乃樹々も春の風　〃

歳首

ふるとしの松の根の雲　姫路藩中　芝蘭

巢暮

流るゝや一年をとしの涙とし　〃

豫州大嶽社

歳旦

一番うまれの色く初日うま　文崗

ち内ちなち

わ〻ゝ西とい婦美ゝ遊ゝ　〃

春興

い〻柳解ひて明るゝ春ゝ　〃

案山子

初鰹素麺の方が命つぎ　鬼雷

日和の神とこの米つり稲もつり　辛尾

寄り日和ゆるす雀　哥興

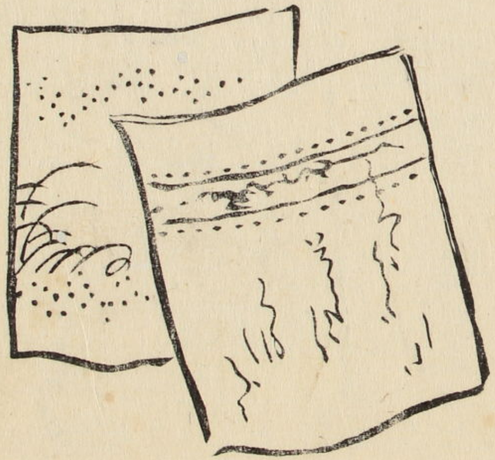
こら侍〻神さまもれも日の出　八千坊

筑陽久留米社中

歳旦

思ふ花の
浪ぢ
海苔乃
新年

哥



不動菴蕣雄月
自画

[illegible]

春の来て名をうゝ　不動菴

[illegible]ほ

[illegible]ハ　[illegible]

[illegible]　荒しく

[illegible]

貴湯

[illegible]き年婿[illegible]き庵や　皓月亭千里

[illegible]の年

年内立春

[illegible]

[illegible]けふ　[illegible]

[illegible]

大正の寶[illegible]えや　[illegible]の市

聖帝

明てを軒端ばかりの花ゑ寺　拙松菴　白狗

〃　毎をつくして

きゝちゑのかれいてをれどの花　嵐夕

吉帝

西ゑの扱ひるゑや飾縄　需郎

年楷　ゆゝ連れ人堂　ゝゝすされハ年も

杉京乾芸作も鎧遊てと事忠　撫松

夕物立ゑ

中く年の屋上ゑ花の吉ゑ　需郎

隙取

月花のあゝ夜てを寒きつや　嵐夕

春興

水ゆゝも蛙ゆゝ中ゑ雨をいゝ提　需郎

色見えて毛ゑやゑかゝゝ柳ゝ　花夕

静さのいゝも毛ゑ雨の花　樗松

春の濱を思ふ

墨法者や中きをゝゝす雲の濱　いゝ房

春興

月の梅都乃人も見ゆるかな　一心舟　升月

春乃雨はれし雨よ日暮さと　卦雲堂　方舟

行乃雲やそのまと春の雨　如鯨

降やそもそのとあと春の雪　静波

春乃夕濡て地と成る松の雲　故列

蝶

夕ゆきや水田の奥を花胡蝶　才舟

きちかう傳ハ鐘の響ろう白菊　故列

春興

石川ゆ早くも出ろう春の水　升月

柳

曉乃拝ききりまろう鶯　一心齋

青柳の糸ゆ解てかわよる　如鯨

通路

初春よ月の花を拝ひりう　静波

春の雨墨ゆかちる四ゆ山ゆ　方舟

流中ゆ中ゆ呼ゆ地の墨ゆ　故列

月の出を隙なき野山哉　八千房

四節

たそがれを地よりつゝて也若葉入

雛菊も咲そろ〳〵咲さり鶯牛

老の身の屠り忠誉の煙の風

春月や手を駄よりかゝ月と花の前

元旦

新たなる朝ぬ雛よ　冴ぬ　芦月

春興

春なるゝて　春の庁参る　ゝ　ゝ

横井保

大三十日　見ゆる不二さくらと思ひ

小豆島社中

通影

松の内人を生ん中通り　亀　渕時　亀十

初雪乃笠を出る風情哉　〃

米の雪よ窟を知て出る鎌　〃

右無

元禄[illegible]書解とし形　鳥[illegible]　亀十

陽炎乃西[illegible]翁[illegible]　〃

鶏[illegible]　うぐひす　うち鳴く　〃

杉濤の二樹のもとにて

行列て見たる二樹乃杉のうち　松濤奉

和名よ豊折雲乃間ひう邪　〃

雲出入ほ[illegible]彩也花胡蝶　〃

三弧

ふたつよりたる[illegible]杉乃内　之上

和名乃見ほ[illegible]てはうみる　〃

かゝこやも　縊もうゑぬ胡蝶　〃

○

山乃の小鳥申うしも　杉乃うち　樵居

はゝひもりのも和名　鳴よ見　〃

むら雨よりまと過てのぬ胡てふる　櫻居

三紙

むかれとりあつて思へまつの内　蟻宝

雨乃日の胡蝶をまつ御よりり　、

和ら春や金布乃夕ゆも立世天　、

扨内

見ともなん東迄をるし杉の内　坂手　梅良

鎌

山端の人も毎年胡てふ　、

和むやまとう故夫月松新　、

書無

雲のうへ清水てえ　春の水　タキハナ　楷中

物迄ちるを姫事を巻乃中き　、

如月ハ月ハ八月ハ板乃事　、

通紙

紙宇也

かき墨乃　所也　戸を　月や　家乃内

月も　家乃　家乃　家乃

新姫様

三歌

天乃戸をひらかぬ君か門　梅伍（夏上ハナミヲ）

うゑけうる菓の花歩み姉妹多　〃

うつをや吉農三高入〃〃　〃

四〃歩や矣こうる雑多の新芽　木仙麿

春風

春雨や二度　伏水

言伝し豆腐愛　奇蝶

○

春の花や幕三高へとの春　宗也

飛州遥義〃部　〃

旅〃〃初日の幸の義〃〃　洛東　賢抑

年尾

ひら〃世代光的あ〃〃屠る者　〃

通歌

十〃〃〃乃乃もち恵むや松の内（下数）　寿〃

初蝶をんの乃あてたい移つこぬ　〃

初春やや〃〃松の引〃〃〃（神田）　雅雪

春〃なる乃義代学〃小蝶ぶ　〃

通歌

小豆島遊覽

花鳥の春を告げそめる胡蝶哉　齡山

吹きそめし嵐の中より散るもみぢ　英樹

蝶々の子を離れ〳〵日和の前　廣業

初花をさのみ惜しみも愛しさ　英樹

初花や山路の人に二三人　廣業

稚子の手を引て松の内　齡山

三ヶ月を見〳〵寒さ雪の内　廣業

乃ち知らぬ雪の内　英樹

大呂

茅代を
屋ちまれかゝ乃
所をうが

李山

木々の
芽やうやゝ
翠もうゝ庚山

春興

青柳の
つゝれく会まね
弱ち馬

右　輕舟

通路

ちゝ花もちゝ
うゝも迷ゝ乃

一湯堂
雷師

蝶

此方とるりて黄ふく蝶さち更り　雷阿

春哉

誰住やむもめろ　木張よ家ひとり　擂旦

面白

長〳〵と咲尺とふ蕚ル　金鳳

又来るもくくも胡蝶の白きル　〃

○

初花のまわひて来よ松の風　蛙巴

いそうしき風を蝶の文書　〃

紫旦

初夏の節ふてよりれ　阿蕉

生巾よ情て咲山吉よりり　〃

三始

吹うつる初春風の雲流る　月人

春雨

手枕の春雨雲で無りけり　〃

〇

試に吹て起るや書乃春　友丸

一月半

春吹

照や雪こすゝ入流るゝ　〃

春雨

花の旅屋を見さてる杉の下　長丸

春吹

新屋や杉のふきをし物うる　〃

〃

花　初花　見つけ

うとに　孤山

さいかも　うれ

春雨

春雨も新よ降めさき梅雨　李村

冬吹

降雪や傳の春に立ち蔵　〃

立始

收まや山ゝるゝ枝の出　東道

春興

むめうゝ春よ風も吉ゝ吹春雨　〃

題詠

花さかりなりて夏は藤のいろ　美表
　　左無
ふり向も眺るまゝ移うる　〃
　　の
学るよやまと入りたの恵りれ　友重
丁と見て深緑二度代　〃
　　○
ひの笠入りこきて微月松　李涌
うたゝ寝の夏の上　〃

案始
夏や秀も緑陰ふるの松り　吉昌　慰慨
　　中山
身をさかれ人よとしの暑　〃
　　杉の花
杉のむこうとも色ハ散もすれ　蓮子改　桂嵐
　　左無
日長しとち社を無て枯ゆる　〃
　　花
寝ゝ上る影ゝせよ蓮よ長借公　略舟
　　藤
藤ひとりのこりて夏の入日うれ　〃

歳旦

初日うけ帯ゐる杉の葉こすり　暁水
年尾

煤掃て今ひろき座ゑ、
春雲

日和して　ひさと　ゆうゆう　春乃水　一陽堂

きり燃す花さくも入こと月　いな竹
肥前唐津社中

歳旦

新入春まゐ川雀すわ音ゆゆ
御俳りと寳ゝ屋ゆ懐
定免なき無ゆも定ゆ初日ゆ
三芳野ゆ三ツ土器や三ツの新
手に振ふものも無免く且ゆ
井ひふきや春ひの水の新し
祢の春ゝのや寿夫の音ひゝ
新光に移りて岩ゝ口の春

玄蜜
旭枝
湖月
憲鳴
指洞
其雪
芦喬
蒐蘿

之部

餅りたふ行も直なる世こ入考　露的

果暮

年仕舞ふ里の家〳〵中さうなり　、

とゝの尾ふ嫁なき門の仕舞ふる　菊雄

鄰拭て邪ケ寸ふるものるうれなる　芳雪

祈の新もうこて松しとゝの雪　光雲

う仕舞餅安の出入を脚色　梅汀

寒すとゝも思ふ蒲団ふ寒ふ　素嘯

松梅ふ年ふうふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵の寒　湖月

梅咲やまふこ五十里のふ〳〵赤雲　旭枝

仮名ふの賀年も寒ふふ年の寒　玉麿

適歌

炭焼乃え踏ふ〳〵　松乃内　菜秀

又新ふ年ふ年ふ　梅や玉井　松雄

松乃内花乃人ふ思ふ梅ふ　舒川

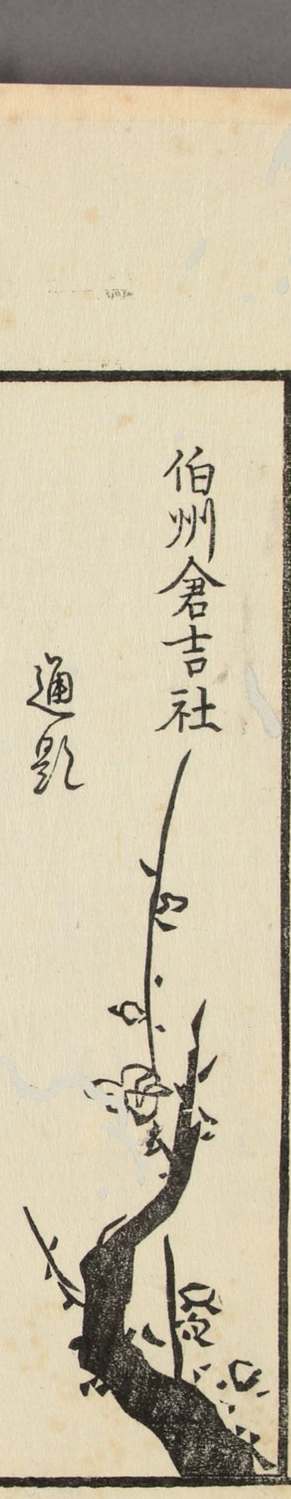
動ふ花や史物ふふ〳〵ふ　、

喜興

ふ〳〵川日ふ〳〵小舟ふ弱ふ　玉麿

○

孫人ふ鄰遊ふ〳〵ふ〳〵ふ胡椒　木仙麿



通梅

折も折蕾の梅乃ほころびて
まことこころもむつまじく蕾乃ほころびる
ほのぼのとなつかしく
梅の蕾二つとなりて花よ入
眠る蕾美しく花乃ひらく
蕾二つ行そのうち花よ美しく

里松
孤翫
柳志
朝鳥
艸苑
里水

花よ長い蕾くゝ色させるう　一景
あるまつよ蕾ちう出さるゝ　春松

初梅

西ちうよ初梅乃ちうよ咲きる
初梅や絶ぬ中うなる日和こ
春風ちうよ吉ちうく初むひらこ
初梅や大和へ行ちうこうる
二三輪唯初梅乃日和こる
初梅乃咲くよ変ちと惜むく

、
一晶
墨水
艸苑
孤鳥
柳志

初氣や旭の兵の横ゝ　孤說

初氣や却て冬の二百濃る　里杉

通歌　喜興

雪ふるとかさねの橋乃ゝ　蒼湖菴女　哥野

載る　初氣　夢乃曉　、

稍氣も小丸ゝ色のゝゝ　、

喜興

榜のゝゝ山根の中の陸の陸　笹坊

通歌

橋乃色あり春ほゝ杉のゝち　嵐夕

情ゝやゝ　もゝ来も矣ゝ　、

ゝゝの光てもゝ足ゝ花の上　笛風

初花のみゝのゝけて咲ゝ　、

火の子も人ゝれ昌ゝ杉の内　丹米

志川ゝと初を咲ゝ姫相ゝ　、

喜興

ゝゝ初ゝ餅を喰ゝ　木仙窟

豊前長洲

歌旦

元日やたのつゝちふ朝霜　真澄

菜油

打〻〻静よとしも暮ぬり　〃

炭想

寒〻も入臨よう来る勝月　御

乗をちらしむさ哥迫の梅　生洸

時雨とる露炭うまこ長雪ふ　いふ坊

豊前椎倉連中

通記

小潮嘴乃徙を殘きり松の内　元宇小大坊　如笛

和衣乃葉のもよ休む夕うれ　津彦　青鳥

足うりの皆葉ら山の内

陣の奥けいけよう咲ゝ朔蜂ま

芋乃蔭夕日うゝて静うわ　稲本　石集

初花や見歩ゝ新のまゝ

めてさきのいゝ猪ゝ　雲乃西　汝水

[illegible]ふす 胡蝶子 汝子
鳴もても志つるよ樹しかれかてふぶ 亟夕
初ふぶや情も松乃屋ちら夜
ひう門を通てもうり 松乃内 白梅 左四日市 吾来
初花を中ふらう 蕉うり
湯雲さよ 湖あの上を嬉の形
一ふをめてて面を雪中ゆを
古人の初ふ蕉てふさ一松子 〃
通影
初花や長者の邸を貪し 小大竹
多昭
鳥蓑のひまさへあもい悪すく 八千房

正旦

元日やこゝ芳ゝわ人のゝ加 河内三尾 吐圓
分集 友ふ内大補の
春来
春の雲 〃
忠猶乃毎月てやむ徽月 〃
芳ふの来ヒやて樹ふ二百暑 〃
ゆき月よ一名 春の丁 〃

三始きさらぎ　〃小河

御代の春や萬代水のそこなども　雲舟

立儀　立春

花市のむかし歌も師走　〃

晩年

此とし也年貢をもる家の年　〃

春浅し

春浅し　軒近く　波畑の

わら門四つも　駐馬　まもなくとうとや

影の寒るゝ　朧月〃　風巾〃

春興

ものうけしてうゝ乱す時や
俗の國の　八十七翁　大江丸

春の人　来る　〃
水　まゝ　待てもゝ

春興

更ふとて花に集まる月哉　栄倉氏　池文

夏吟

類ひして牡丹の色蓮より　〃
麥の音二

赤さてや白しも盃のまちふた　柴田氏　鴻笛
柳を洗ふ日新しさもし　夜入も　〃

夏吟

白ほうたんを見る日の下宮　〃

奇仏一ぢ兵興

春無

梅散て一いま雪を結ばりぬ　鴻笛

初ものゝ魚ゝ多る乃嘴　八千

門口は網入ふ奥千扇て　池文

うい浪上ふ時所の新　田美

嘴蛇口ノ紫苑も俤ようさ　千

秋乃ふ多れの北よ雲ーよ　笛

けゝひを浪半ゝと訪傳ん　美

遠のうき衣ゝうふけて　文

ほくゝと通東ゝるを現て　笛

多乃帳は参ふ水鶏の　千

衣さを二月も古るる夫松梅本　文

春はまま交ふ月のそかく　英

月冴て鬼の罠　のところと　子

一具の五器て志ふ四方人　絢

屋園は所ゝも い酒を雲あき　美

花を折ゝと夏ゝ見ゝせらさ　文

一ノ歯て多梅回の根芹ゝ汁り　鴻

水鶏を造ゝ及の俤し　子

孫[illegible]

夜蛙　水の蛙日和濁りけり語るし　池文

春鳴　春の暮るゝ分の却りけり　闌人　鎬笛

忘霜　くゝのあき柿の実さえよ　ちゝ乳　田美

落角　歯黍山に出さと落し牧　鹿の角　八午

通路

松の内由そゝめてゝき人はうり　東溪　橙六

松の花や松ゝふし風のひゝり　〃

苔しる情ふおそ春の色ろに　〃

春雲

初橋巣雀の由めハ芝よりり　六〻舟　丁江

田の畦ゝ忘淀の[illegible]舟うる　〃

早春吟

早乙女をさそふ春の菜種植

佐川氏 一庵

遊歩

菜の花や河内を横へ長い國

庵

通り雨

松のうちめでたさ

葉ゑびのうち如

高の餘情と

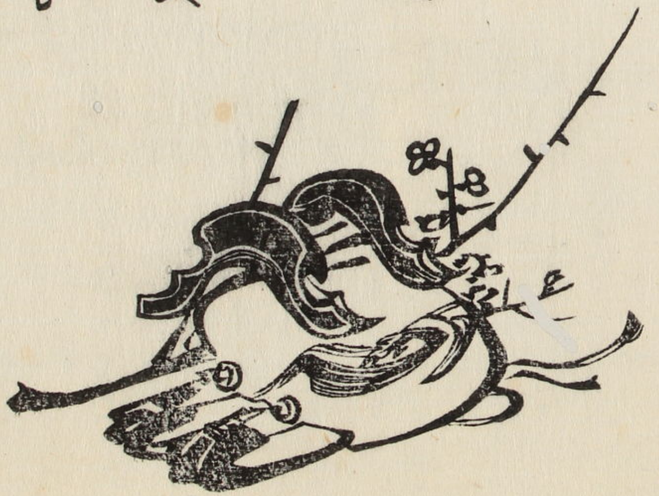
子の繁ふ囊

初花とふ雪も

二日三日うる

古

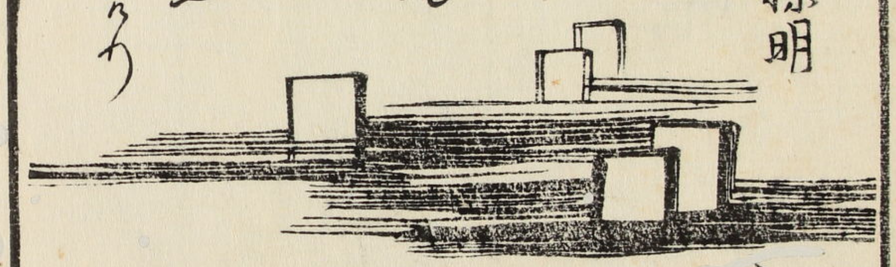
金子氏 其流



通景　仮山戈　棟明

新しく車しく
さやそ杉のうち
春入煙柳よ
ひらけ出る花

初花や
玉松の雪ふ
見やるうち



○　吉田戈　蓬亭

雪景
日の白ひかり
松乃内
長閑さや
晴明雪を
花出る

初花やこの比
ふとき佐野の松

春景

新年の梅の
ふくらし
春うち

奇仙

春興　棟明

嘗や梅はへあ稚いなつらき
性おのれ窓入彩春風　八千
筆海永遠の法山雲やて　澄州
ちのもき駒ふ水もき　方丞
門前入日更うるの皮　其流
高ちうの川とて旋うの雲　橙六
仰山よ蕚秋水をさ一下し　千
とてしやさ西乃夕され　明

坊ちゃんをひとりを寄ひとり
代り番のとぎれの続いてゐる　禾
涼しきに寄の金をもち寄け　淑
舟遊びかわひとぬるふしして　六
懐の温石古風ふる月彩よ　流
粉糠のやうな雪のふり出し　咱
牡丹の蕾引きそふ九折　子
水うつ而手のかけるつのさき　淑
花乃咲ちつひさきふ泡を引　禾
沐のまとて書筆粥　流
　　六

裏山乃色ふなりさる川色りし　子
芽しき彩よ物はり見糧　淑
初別し隣乃嫁う言葉ふつき　咱
古うも粉ふさ化粧の美　禾
言れていい時てそふりて舞屋　淑
屋ゝ警邸て祭さもの毒さる　六
竹もあき初のう腸　見遠色　流
花の衣穂うまんの腸さま　咱
月のほふよを言ふ沿山ゝイ　禾
雑乃こ色も乃ふうこさむ　淑
　　子

芝幅ハたゝかふに雷よりも垂風　流

三里の春はいつも絶さす　六

春さきのしら梅枝の今を盛ふく　本

つゝ雀のたうふくち蔣　明

時雨ゝ砌さらぬの梅折て　子

法ものしらす耕しの跡　洲

初茶ゝ。ふゝひ春の時ふる　六

霧きらふ山の春ふく　流

春興

雪雲の間ハ梅咲る体哉　也曾利氏　鷺洲

春里ハ梅そよいまさ春なろう　〃

春雨や古れ文書く多仮ひ　〃

○

水を出ふく鶯を濡ふく春の雨　丹洲

○

霞ゝ高世を煙りとして登ふ　方来

遍路

杖乃内ゝ[illegible]　良風

初花や児ゝ机乃よりの[illegible]　〃

暖こさつて菜の花畑の[illegible]　〃

春興

雲乃寺大きゝ影の暮て居ゝ　七十六翁　枫山

ひさゝゝ春を啼鳥も稀ゝ入　〃

服和

春の日乃　谷や　たきゝ　由ゝし色　江辺氏　二俵

春興

也免鳴て川ゝ秋酒の　[illegible]　芙江

○

東山ゝ妻　粉ゝや　花乃春　蔵浦

歳旦

若水や既かこゝ[illegible]ほさて毎　壽松

[illegible]

遠音入暮よりて春去れ　〃

春哉

曲水の流れを定めりり　〃

○

菓子もや北山の日南郷さし　遠江　魁我

かゝ所い嫌も色しゝ春乃雨　〃

歳旦

淀路島淮より先へ〻霞　有[illegible]　東門

吹年

ひゝゝせもこゝ[illegible]長ふ雲なり　〃

春哉

書来の[illegible]柳に猫入　〃

[illegible]

春興

ゆきの原えく　まうしく　乱らし風　稿雪

彩雲ゆてそ　ゆきえぬ風中　たれし

遠髭

千代うけて中おくし　松の内　壇代　魚明

雪よりふる物の色を鶴の毛衣　〃

春ゆかしく出て秋もをそろ　〃

春興

山園の作顔も　ゆくさ　八花材

遅きいろ藤すれい
おれし樹よ

狸出ふ　ちよ　ゆきをしき　柳ふ　田京　蔦郷

歳旦

[illegible]月四海のふ寸却あ折　有圭

通歌

[illegible]埃入けんを連て松の内　丶

三つ[illegible]の[illegible]を舞て[illegible]　丶

通歌

[illegible]と[illegible]も[illegible]る〳〵松の内　園氏　汝恙

何月[illegible]情[illegible]

[illegible]や[illegible]を初むを井紅　丶

歳旦

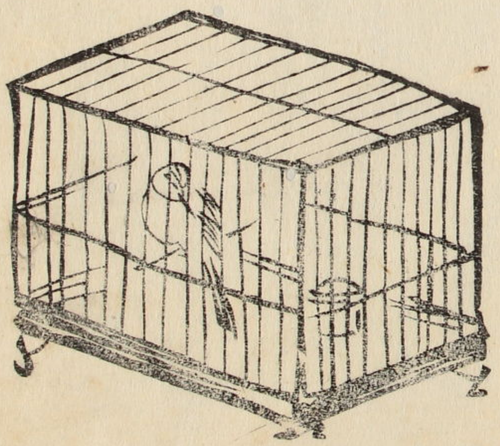
山杉よ

[illegible]

遠の

日乃

[illegible]



自積

試毫

明和てきのふを遠く見る毫　蝸山

やんぬ

とゝ入坂ふもとを吉原　、

通筆

あらふるゝ氣をかゝ[illegible]　松の色　、

初花やまさかうとゝ六雪乃山　、

見ちゝ幡さゝ行　暁遠ゝ　、

山ちゝ鐘を

とゝゝ夕霧

堂ゝ中ゝ

小枝を呼

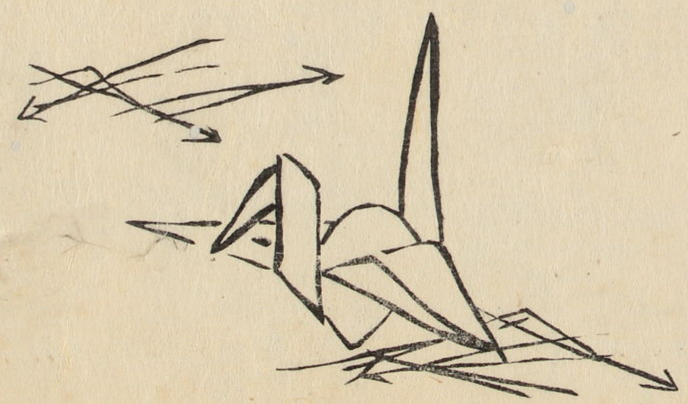
先ゝ[illegible]

山を

ゝ

さゝゝ岩も

なゝり

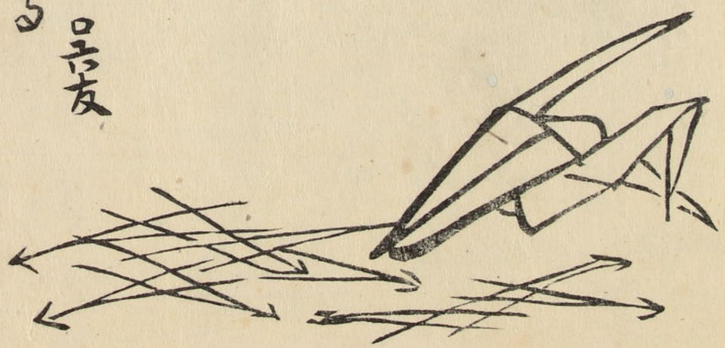


高三社　春興

雛子川流るゝも　支雀
行末よ華ひらり
片袖い連れるも
ちゝはゝさうぶゝ

春のゆも雨ふ　峯里
ゆもいい春よ入し
ほ生出そろしきと
む入　吟

雛子の爲えつゝて　春乃　品友
多



大ゝさ人乃　知れゝ
見忍ゆ汐干ゆ

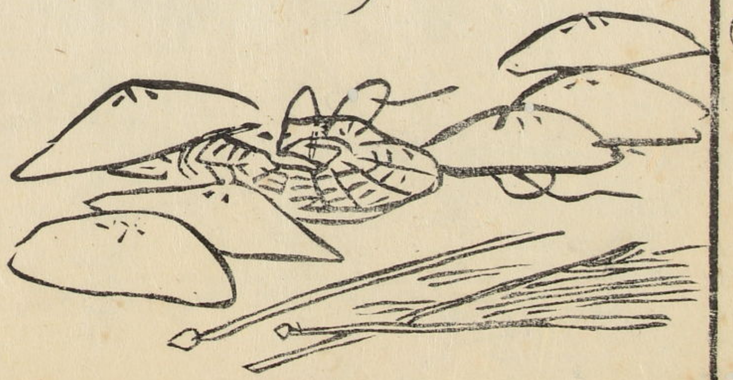
春入見　ほの　抑乃　知ゆも　ほる　明古

菜幕搗　平側
こゝろはゆ　ゆく　る

山吹よ水ゆ　飛あけて　菜石
青乃夕人　集乃り
通乃り

通鈴

四方の山々消えて
も入る月の出
山際より何を期待入れ
松の月旭より長閑
春興
高楼の月ひとりて
月と梅



古竹房

切溶くも
う川の
ふ春雪
春斎

雑子の
静子
春人

歳旦

元日や蓬も
鄙の奴乃西
ゆふ
乃雲乃汗ゆく
すゝ川浮きぬ
春興

廿日のむや
古鄙ふるい　蓬の吸

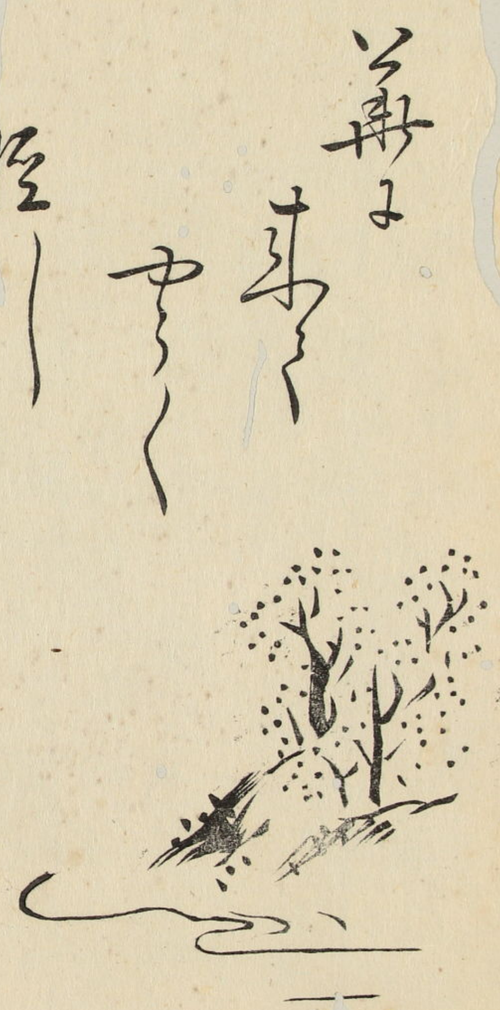
不深

春興通記

梅ちる乃日南乃
なりの忘れのうち
紅ふくき
と味
女ふる

初ゝ春や足ふる人
老し朝海

春ゆうて花
ゆうく月乃
勝ふる　古　蕪孔



霧よ
来て
中くく
泊し
朝入
蝶

滄巴

春興

学菓茅葉中よりまとい出しき　都水
初蛙　鳴き恵もちろう峰て居ふ　〃
菓穂て新しきを名を乗しり　〃

麦畑

遠樹紅乃月ふ　呉尺
ふ〻ふ風ふり

○

初燕や　まさ雲二枝ふり　飛良
三日月のふもけ離ふ　〃

春景

さくらもあやこの序をまくすとも　宇中

ひとくさの物もあらぬ朔時る　〃

日ゆりは心も傳ものす　猫入恵　〃

（宇治のえりもとのつゆしもをこそとひわく）

来よりは月日並ひてを朝入恵　北堂

ちゐ不

師走梅何入苦もるくひぶきり　〃

（ほ春吹）

彩の文ちちの信るる花義武　〃

茅入賀やを毒樹乃家とくこひる　兎六

（紅文八十八のる齢の春をむえ
うれしをを寿て）

春景

舟のやて人色ハ酒あり菊のむめ　〃

上海景き　枯久しく枯もちん　〃

初蒸うりとを内え入ぬ　〃

元旦

物のおと安ぬうり　此入春　以を五

（ちんか）

としの尾よ松を変ぬ安ぬ　〃

蕎麦の粉の色入とを祝の作　斗風

弁仙西六峯

彼岸うら郭公の桃の実色ふ　風伍
人よ彩色て点元如鯨　放水

暖き枝入はしらの白めん　普朗

鶯入勝の名札おうらき　伍
ひうらも出ていさふ二日月　水
一日の境う新蕨　朗

下略

春興

花芹もものゝ席よ摘もけん　都水
勝寒よ法うこ三寒の白ひうり　善朗

内ゝ戸ゝ元
ゐゝゝ鶯門も
中ゝ京ゝ風　青風

鶯乾　椿
ほゝと咲ゝ　伍

春興

花乃雲春風を水うつくるきはつ　雲太

見渡す春色ハ月を望ム吟河風　支岳

新玉の年て宮の旭影猛　和十

花の山うゝ紙も春ぶ神こゝ　田雀

ゆうべ　略

さうもなぬ　一ケ日

[illegible]

初雪の[illegible]

廿日　男自画

春興

[illegible]

通路

[illegible]

[illegible]

春工

○

[illegible]

、

春興

[illegible]

百吉

思ひ出く小松引[illegible]

、

[illegible]

、

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

嘉英

喜興　通影

杉の間　杉乃人もゝかう　米丸

蟬しも飛ぶ飛ぶとおもふし

喜興

小庭乃苔もよろ〳〵仏の秋　中嶋氏　栗玉

友吟

ふる水乃ながれ流れてゝ柳

高橋社

喜興　乃壽

晩や柳うゝ分ハ　眉うゆし

都さ乃又雪　峰よ梅の花　三都英

山川や面うゝ　雪ふ入ぬ

蒹葭乃よゝ伏乃　ゆさゝ

題歌

[illegible]

[illegible]

普朗

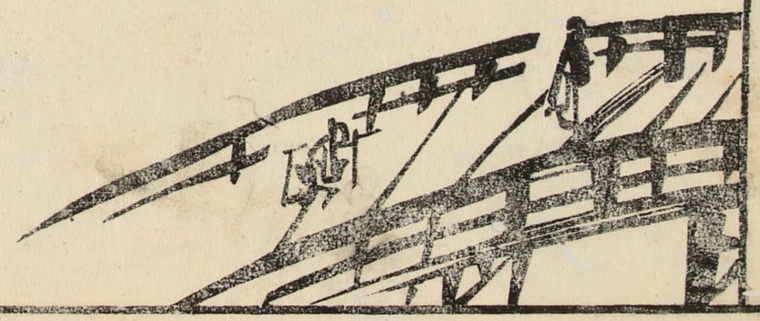
松の内せちをもしられぬ

里碩

[illegible]

[illegible]

二百あり



題歌

松の内

[illegible]

[illegible]

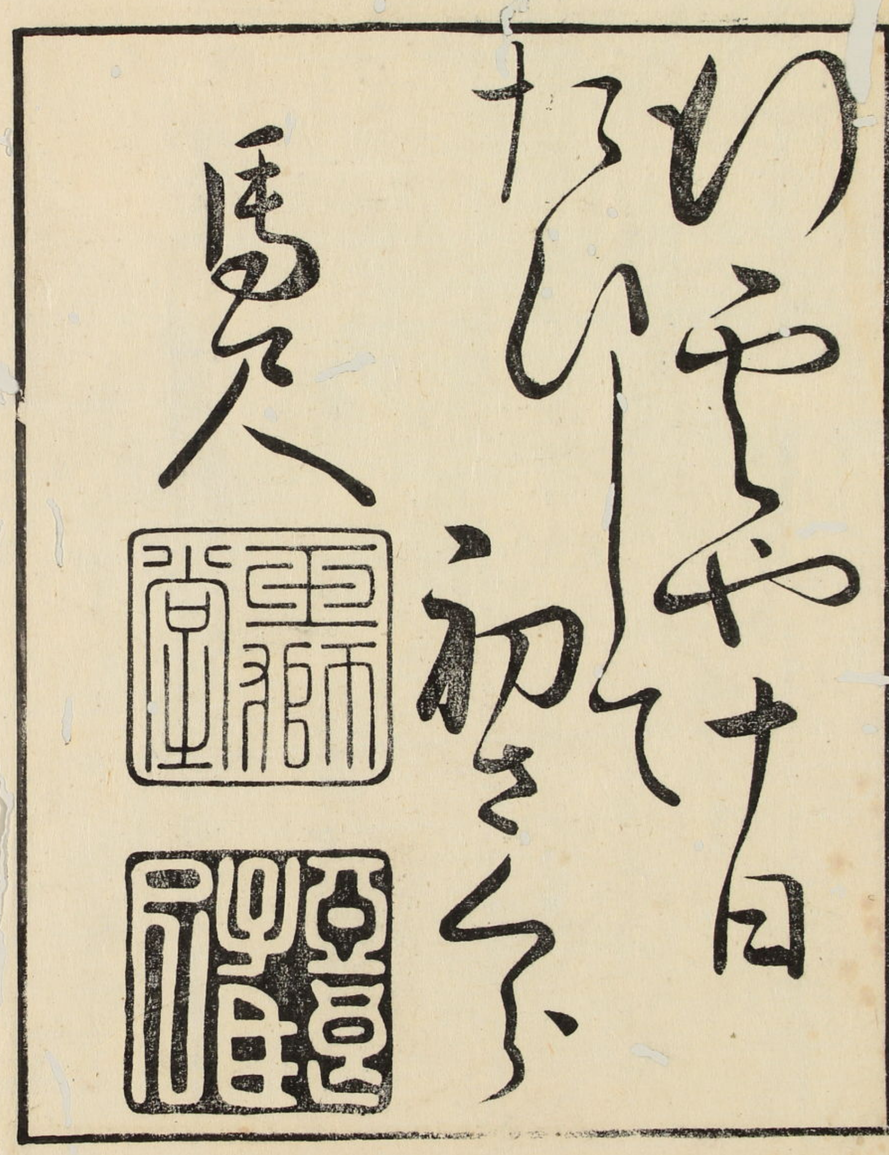
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ちちや
ちちの
ひまに
小弟り
先祖を捕
雪の沼さ
いそ房


十日
馬人
初雪

通雅

初もとに[illegible]を
めぐりしかた　　嬉笑

霧ふる川柳の
淺緑　　〃

雪見　まつ小
野乃草　松俳の　　蕪真

志ゐ[illegible]
[illegible]の夕　　〃

おくるとに涙れる物雲雀　陳之

反吟

ひしりの[illegible]も[illegible]
[illegible]　　〃

雪見

松の緑月
[illegible]　　北人

長藤社中

春雨のうちなる雪に
ほくしかまつの初もの中ゝ　嵐雪
一ゆきもあるあとの雲のうち　夢史
うゝ来ゝ嫁ゝのゝ花は和哥　ゝ
花ちるあのみ　風うら　宣御

初雪
こゝ
見ゆる　飛来
ゝ見えぬ
ゝ
ゝの顔　嫁ゝ
ゝ
ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

筆入れの[illegible]師をそう　子　槌

船の唄しらべ　〃　槌

佛ともかるるものは[illegible]

彼岸の入日身をせいすり　子

花よとて小出もしらぬ端の家の　槌

書や博むと蓑むしの　子

宮詣るを始行入[illegible]　槌

[illegible]の松明を運ぶ　子

河州留田村社中

通頭

[illegible]

通歌　[illegible]の　[illegible]

小田輝

[illegible]の内仏も[illegible]

[illegible]

蘆江

通弘

初霜や蕎麦もあの色まさる　浪連

燈もれて芋乃屋根を動かせて

鈴さわ月も錆びん松の内

○

春の

初さくら　ひらひら　南六

潮しを　うま

春興

ゆく〳〵の鶴うけなる松の南

八月里

花ゑ

ちらちらハ

春雨

三日月の

新ちう

明ちの夢

通軍

山里を森うちくる秋の内　若松

初花のうつもれ咲きぬ、

花ひらあらそふ嶺の二つ松、

春興

雉子の夢

碑の一人　うちとく

有文の　男の

うちし　山路を

汝の花　ちるれ

通軍

風の妹為眠る新よ　馬羊

初花の日よ　春

きつ　松の年、

春興

高砂の　柳よ

うちる　横火ぶ　李角

上年の芽よ　二百

はつ乃　あつ

あつ郎、

題歌

[illegible] 八百[illegible]

[illegible] 、

喜興

[illegible] 八重里

[illegible] 、

[illegible] 、

月並五題抜萃四十章宛内五章高判

春の奥　水の日和の見申ふるり　正月　宇和島　月湖

霞くる海を流るる[illegible]　田里　縞笛

[illegible]の奥あるらしとも[illegible]　[illegible]　曠冬

[illegible]花四方帯[illegible]　高原　和山

鳥[illegible]　[illegible]　圭々

壬正月

[illegible]　松山　三都喜

大[illegible]　三日市　晋和

春の川　[illegible]　鯉卜

[illegible]　飛來

二月　琴古

[illegible]　高原　子剛

[illegible]　サノ　尺蠖

[illegible]　如[illegible]

海[illegible]　日　和山

[illegible]　素亭

三月　鉢山　古[illegible]

[illegible]

[illegible]

三月 暮ことしも [illegible] 日しろし 松山 茅雑

四月

かるの [illegible] 人のゆく 鶯和
[illegible] 雪人
かるのゆく [illegible] 蓑を [illegible] 蓑を [illegible] 蓑を

十月

霜はらはらとこの年ふるかとうたがはれ
戒うう義華うう文字小判うう申
ト賣の宮ねうう八まむ
列ゆゆ丁湯屋うう
ゆゆ明ひ丁ゆ

十一月

寒菊や茶屋の雪の薄
かんきくや桂ゆ咲ゆうう雪
雪深ゆ見ゆて
中ゆ孫ゆ
杉の中ゆ

十二月

師うう
紅つうう
ひうう
ゆゆ門ゆ
恵方うう

豊里
冬葵
歌仙丸
其丸
屋鳥

伏見社
淡雪
冬葵
田
語
飛來
古巣

川上
飛來
子剛
東羽
花鳥

[illegible]
ゆうう
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

月乃花の十日まつ
まもなくさみのさ
さけいくうくしもの月花ら
山里と西月まちよりの雪
如月や花のまくちくちくの山
月花うみく梅乃まちつを彩みく
歌乃戸の山吹乃花乃
激となれい雪吹くく紙谷川
蛍乃夕ア上と南うくく柳
さけくくと乃花い花ちく咲まく
早蕨や能見ん乃ふく家一つく
川城の夕ハ乃ア梅の書

擂老
乙二
歳二
方四
京池
平角
桐柄
湛色
一茶
十色
蓼兆
双鳥

唱人食のうくんとまくう乃胡蝶
夕ま乃ア作藤のくくくくも秋の初
赤門の書や柳もくくやくぬ
ひくくくもの羽を彦けく花の乃
ま乃くくく蛙ちくくくくの出る
ま乃くくくも梅の海の赤つくく
ま乃の後人合ま乃くくくく

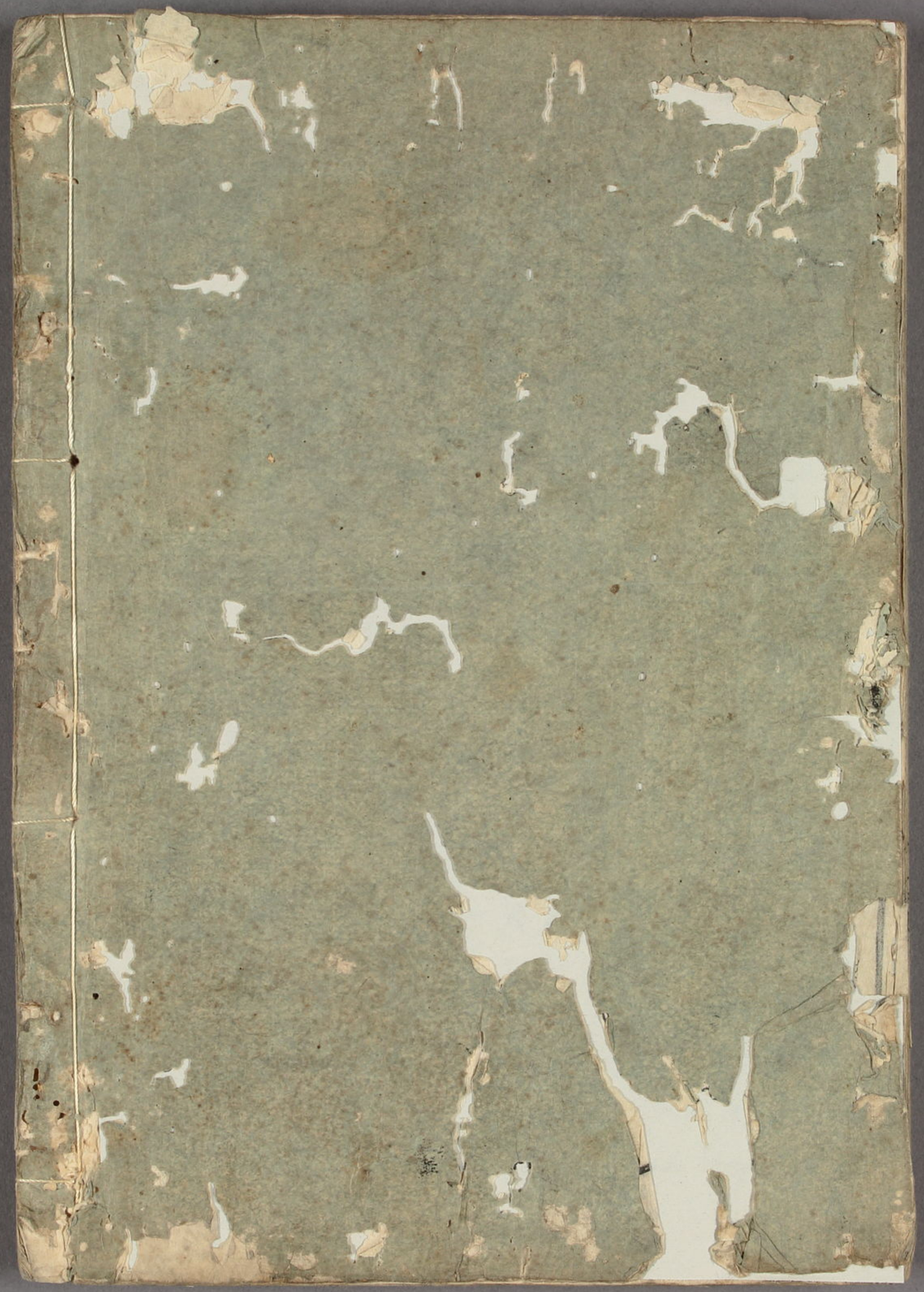
書興

ま乃くくくくくくくくて初ちく菊
赤色くくたくくくくくを梅の乃
みくくくと赤作ちを桃の書く旅
梅折くくくくくくくの遠暗乃
猿ひくく書良の日乃くくくくく
義乃くくくく作くく乃花ら

夏柳
湾く
書稿
柳荘
文石
宗石
蛍暁

尺文
升六
春京
高淵
矩随
銀桃

[illegible]

[illegible]

[illegible]